

ひょうご

地域創生フェス

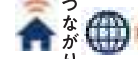
in 丹波

NOW ON AIR

〜Workshop Review〜

フェスに集まった移住者18名が5つのチームに分かれて、話し合いを行ないました。

ひと

つながり

五国の特色

予算！？



5つのテーマ

「移住」「まちづくり」「起業」「教育」「観光」

FM

U5H

Freedom Movement, United Gokoku of HYOGO, 2024

地域創生

のために

なにしたい？

難易度別クエスト型ツアー

「移住チーム」



どのエリアがいいかわからない？

「難易度別クエスト型ツアー」を提案します。兵庫県は地域によってさまざまな特色があるので、地域ごとに生活のしやすさなどの項目別に難易度を星の数で表示。移住希望者は星の数を参考に地域を選んでパッケージツアーを作ってもらいます。移住しようとする人の中には、「どの地域を選んでいいかわからない」という人が結構います。地域性をゲーム感覚で体感してもらい、移住に大事な人と人とのつながり、今後の生活をイメージできるように手厚いサポートができれば、移住者がもっと増えるのではないのでしょうか。

地域の人たちとつながりを感じてほしい

【裏】人生相談所を開設

「まちづくりチーム」



やりたいことを見つけて実現するために

今の大学生や若者は、自分のやりたいことが見つからず、やりたいことはあってもどう実現しているかわからない人が多いと聞きます。今回参加したメンバーの活動地には人生経験豊かでユニークな人材が豊富にいます。若者がその人たちに会い、人には強みも弱みもあることを知り、何か一歩を踏み出すきっかけを作ってもらうツアーを提案します。表向きには「意識低い人向けのキャリアデザイン研修(笑)」としていますが、裏テーマは「人生相談所」。兵庫県内が若者たちの人生相談のフィールドになればいいなと思っています。

兵庫から一歩を一緒に踏み出そう

かばん持ちプロジェクト

「起業チーム」



起業家の秘書を体験してもらおう

私たちのメンバーは皆、起業しています。起業を目指す人に、挑戦を後押しできるプロジェクトがあればいいのではないかと考えました。その名も「かばん持ちプロジェクト」。起業家の秘書的な役割を体験してもらうのです。実際の仕事や生活ぶりをそばで見て、いい面も悪い面も吸収。どの起業家につくかは、「社長ガチャ」をして偶然に任せます。さらにレベルを上げたい人は、「右腕プロジェクト」として起業家の右腕として働いてもらいます。これを繰り返せば、兵庫県は起業家を生む県としてのブランドを確立できます。

偶然の出会いがチャンスになる！

五国 県内こども留学

「教育チーム」



五国それぞれ全然違う魅力がある

兵庫県内の五国(神戸、播磨、但馬、丹波、淡路)はそれぞれに魅力があり、課題もさまざまです。そこで小学生がいろいろな環境を経験できる「県内こども留学」制度を考えました。利用したい人が登録し、登録された家庭に子どもが出かけます。その町や学校のことは保護者も知りたいと思うので、オプションで家族と一緒に参加できます。滞在場所には、地域にある空き家などを活用します。1年目は100万円の予算を使って、20組を実施。2年目以降は取り組みたい市町村を募集し、一国につき100万円の予算をあてます。

子どもたちが五国それぞれの環境を体験家族と一緒に行動してもOK！

「ないない」から「あるある」へ

「観光チーム」



名物も名所も宿泊施設もないけど？

地域ごとにプロジェクトを考えました。西播磨は宿泊施設も名物も名所も少ない「ないない」エリアですが、例えば、飼っているヤギと過ごせる宿泊施設を目指し、まずは通所できる環境整備に100万円を使います。但馬では旅を通して地域のキーパーソンの活動を巡り、体験や交流を図る地域共感プロジェクト「Co-trip」を企画したいです。淡路には強い思いを持って移住した人が多い一方、観光客がすぐに面白い人に自力で出会うのは難しいので、コーディネートできる人を育てたいです。神戸・阪神や丹波でもいづれの手法も活用できると思います。

面白いことに出会える仕掛け

一人ひとりがおもしろい 結集しよう

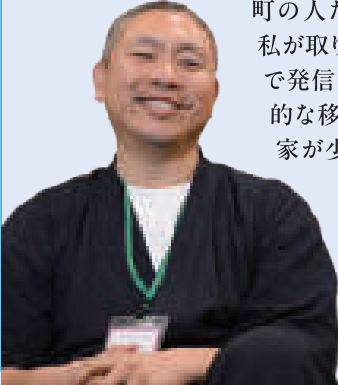
兵庫教育大学大学院 永田 夏来さん



フェス開催は、私が兵庫県から委託を受け、移住者の生活などの調査を行っていることがきっかけでした。インタビューした約50人の一人ひとりが、とにかく面白い！この人たちを集めて地域の課題を話し合ったり、交流したりすればものすごい「化学反応」が起きますと確信しました。そのことを県職員に話し、形になったのが今日です。ワークショップの発表は、若い人に響くボキャブラリーが盛り込まれ、実現させたいものばかり。「すごいことが起きる」という私の思いが現実となり、感無量です。これから力を合わせて兵庫県を盛り上げていきましょう！

移住先進地・丹波の経験を全県に

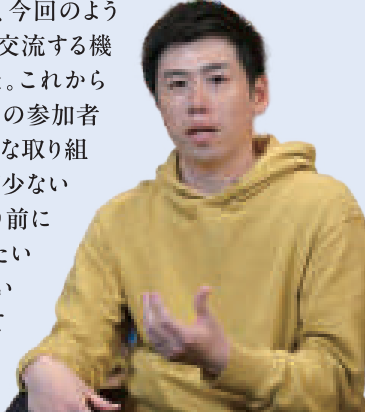
ファシリテーター 横田 親さん



私は2010年に丹波市に移住しました。当時は有機農業の里として知られ、農業で移住する人が多く、そうではない私のことを町の人たちは不思議に思ったようです。私が取り組んだのは、丹波の魅力をSNSで発信すること。メディアで「丹波は魅力的な移住先」と取り上げられ、今は空き家が少ないことが課題になるほどです。丹波には自分たちの町を自慢して語る人がいっぱい。暮らしの誇りを口に出せる人を育てていくことが、兵庫県を魅力的な地域にすることにつながると思います。

移住者促進は長い目で育てよう

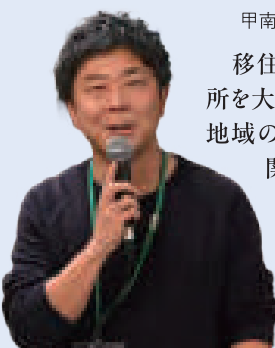
ファシリテーター 丸毛 幸太郎さん



今日のワークショップは、現場で活動されている人ならではのアイデアが出ていてすばらしいと思いました。同じエリアの同士が会うことはあっても、今回のように兵庫県全域の人たちと交流する機会はなかったと聞きました。これからの展開が楽しみです。今回の参加者のように、移住先で特徴的な取り組みを行っている存在はまだ少ないですが、20年後には当たり前になってほしい。移住したい人と、移住者を応援したい人たちが、もっとつながってほしいですね。

移住者はコミュニティが大切

甲南大学 阿部 真大さん



移住者は自分たちの居場所を大切にしています。彼らは地域の昔ながらの濃い地縁関係を大切にすると同時に、新しいことにも積極的です。移住先でユニークな試みをする人たちは、地域に根ざしながら、都会から来た人ともつながり、一緒にできることをどんどん生み出しています。そうしたハイブリッドなコミュニティづくりはとても重要で、その支援を兵庫県には求めたいですね。

兵庫のこれからの可能性

同志社大学 轡田 竜蔵さん



兵庫県への転入者が以前に住んでいたのは、実は大半が兵庫県内。地方自治体で人口減少が進むと、ネガティブに捉えられがちですが、相互往来で活力を維持できます。仕事の満足度や、男女の役割分担に関する意識も都市部と地方では差がありません。「街の人は寛容。地方の人は保守的」という固定観念を脱して、新しい価値観を生み出したいですね。

空き家問題 地域でバランスよく

神戸学院大学 松村 淳さん



神戸市郊外の、60～70年代にできたニュータウンは空き家問題が深刻になっていますが、「地方に住む方が挑戦しがいがある」という人も多くいます。永田先生から、「今日のフェスは、県内から面白いプレーヤーが一堂に会する」と聞きましたが、まさにその通り！町にどれだけ面白い人、楽しい人がいるかで、未来の盛り上がりが決まるように感じています。